

第25回 MQI活動発表大会終了

2020年
MQI統一主題

つなげる
—自と他の関係を次の段階へ—



発行(公財)練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
TEL03-5988-2200(代)

25年目のMQI活動を振り返って

理事長 飯田 修平



MQI 25年目は、「つなげる—自と他の関係を次の段階へ—」を主題にしました。昨年も、同じことを書きましたが、活動テーマの選定に難渋する理由が理解できません。現場で困っていること、問題点があるはずですが、他人事ではなく、自分の業務につなげて考えてください。

Covid-19下で、MQI活動をするかという疑問もあったでしょうが、私には迷いはありませんでした。むしろ、この状況だからこそ問題は多く、MQI活動を通した解決を期待したからです。エントリーは4チームしかなかったため、プロジェクトチーム3つに発表を依頼しました。全7チーム、困難な中で活動し、発表していただきました。表彰されなかったチームも、奨励賞として仕事納めの会で表彰しました。2021年も、Covid-19が継続します。推進委員・チームメンバーの更なる努力を期待します。

第25回MQI活動発表大会を終えて

院長・MQI推進委員会委員長 柳川 達生



第25回発表大会は、令和2年12月5日当院地下講堂にて開催しました。今回は新型コロナウイルス感染症の時代、Webと講堂会場とのハイブリッド方式で開催いたしました。29の外部機関のサイトと、内部165名が参加しました。職員は講堂の他2カ所のサテライト会場と各部署での視聴と分散し密にならないよう工夫しました。本年度の統一主題は「つなげる—自と他の関係を次の段階へ—」です。参加4チームとプロジェクト3チーム計7演題の発表となりました。発表終了後、当院での新型コロナウイルス感染症による当院への影響と対応に関して柳川が話をしました。

最優秀賞は臨床検査科の「病棟や救急カートにある検体採取容器を管理する仕組みを作る」、優秀賞はCOVID-19チームの「新型コロナウイルス感染症対策の取り組み」、努力賞はオンライン面会チームの「オンライン面会の実現」、特別賞はホームページチームの「ホームページ刷新の取り組み」に贈られました。表彰式後永井庸次様、榎孝悦様より大会の講評をしていただきました。残念ながら発表大会終了後の恒例の懇親会は開催できませんでした。来年は何とか開催できる状況になることを期待します



★ 各チームからのコメント ★

	活動主体部署	医事課・医療情報
	テーマ	病名欄への病名登録を確実にする
	チームリーダー	阿部生太郎
	各部署の方に協力いただき、活動の成果として病名の登録率が顕著に上昇しました。今後は精度の高い病名登録を目指し、登録しやすい方法や活動を終えて分かった課題に取り組んでいきたいと考えています。本活動に協力いただきありがとうございました。	
	活動主体部署	看護部
	テーマ	退院支援に必要な情報を多職種で共有する仕組みを再構築する
	チームリーダー	高木由季絵
	今回退院支援管理表を見直すことで、他職種で退院支援に取り組む事の出来るよう仕組みを再構築しました。現在内科だけの適応になっていますが、今後は全科で統一して使用していきたいと考えています。引き続きご協力よろしくお願いたします。	
	活動主体部署	内視鏡センター
	テーマ	内視鏡検査増加にともなう業務の見直し
	チームリーダー	森下佳子
	今回のMQIで検査準備にかかる時間を短縮し、より多くの上部内視鏡検査を実施できるようになりました。この活動と同時に、内視鏡センターでは感染対策を強化し、患者さんが安心して検査を受けられるよう努めております。今後もさらに業務を見直し改善していきたいと考えておりますので、皆様のご支援・ご協力をお願い致します。	
	活動主体部署	検査科
	テーマ	病棟や救急カートにある検体採取容器を管理する仕組みを作る
	チームリーダー	中尾和城
	今回の活動で、検体採取容器管理を検査科へ移管したことにより、使用部署が適時安心して無駄なく使用できる管理体制を確立し、そして、使用者の要望に広く応える対策を実現できました。今まで、検体採取容器管理に携わっていた職員の方のご協力に感謝いたします。	
	活動主体部署	COVID-19
	テーマ	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策の取り組み
	チームリーダー	金内幸子
	COVID-19対策では、院内チーム力の素晴らしさを身に染みて感じておりました。出来る限り最新情報を院内に発信できるように努めております。この先も困難な戦いは続いていくと思いますが、一致団結して乗り切って参りましょう。よろしくお願いいたします。	
	活動主体部署	HP刷新
	テーマ	ホームページ刷新の取り組み
	チームリーダー	小林裕子
	取り組みの中で分かった「意見集約⇒伝達⇒反映に時間がかかる」という問題に対し、管理会議に管理体制の明確化を提案しました。今後の各部署・委員会で内容見直しや管理、適切な情報発信に繋がるものと考えていますので、引き続きご協力お願い致します。	
	活動主体部署	オンライン面会
	テーマ	オンライン面会の実現
	チームリーダー	堀裕士
	今回は運用面においての課題が多く実現には苦労しましたが、患者さんや家族の方・職員からの声が励みになったりならなかったり一周回ってなったりしてなんとかここまでできました。年明けからビデオ通話機能が実装され、CLOVERはさらなる機能向上を遂げますので乞うご期待。そしてISP洪氏に多謝。	

長時間にわたる審査を有難うございました

★審査員★



【審査員長】
柳川達生
院長
MQI推進委員会
委員長

【審査員】
金内幸子
MQI推進委員会
副委員長

【審査員】
栗原直人
副院長

【審査員】
佐藤松子
看護部長

【審査員】
阿部哲晴
事務次長



【審査員】
東宏一郎
内科科長

【審査員】
福本和美
副看護部長

【審査員】
永井庸次様
株式会社日立製作所
ひたちなか総合病院
名誉院長

【審査員】
榎孝悦様
株式会社
榎コンサルトオフィス
代表取締役

各賞受賞チーム



優秀賞
【COVID-19PJ】

努力賞
【オンライン面会PJ】

最優秀賞
【臨床検査科】

特別賞
【HP刷新PJ】

発表大会 お疲れ様でした

座長



第1部



第2部



総合司会



時計係

☆授賞式☆



会場風景



☆発表者☆



☆MQI推進委員☆ 活動・発表大会を支えました！

☆質疑応答☆



サテライト会場の様子



第25回MQI | 発表大会に関する総論的感想

株式会社 楨コンサルタントオフィス 代表取締役 楨 季悦 様



25回の節目に当たる本年のMQI発表大会は、練馬総合病院が先駆的に取り組んできたMQI活動の四半世紀にわたる伝統の重みと、コロナ禍という外的要因を踏まえた変化に機敏に順応している柔軟性が感じられる素晴らしい大会でした。

統一主題の「つなげるー自と他の関係を次の段階へ」は、今、医療の世界だけではなく、全世界に問いかけてられているテーマですが、国が新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践を呼びかけている時代背景を受け、「医療の質」の基盤に、職員、患者・家族、地域住民の「生活の質」があることが共通認識にあったと思います。

また、世間では、ウイズコロナ、ポストコロナ、ニューノーマルなどの言葉が飛び交っていますが、コロナ禍に影響なく、淡々と質の向上をめざす分野での発表と、コロナ禍の現状と今後を見据えて戦略的に質の向上を図らなければならない分野での発表が明確に位置づけられていました。

開催形態がWebとのハイブリッド型になり、新たなMQI発表大会のあり方が示されました。この新しい開催形態の準備・実践には並々ならぬご苦労があったことと拝察いたしますが、次年度以降も継続すべきではないかと思えます。開催準備に関わった方に「特別賞」を差し上げても良いのではと思いました。

プロジェクト成果として発表された3演題は、いずれも「コロナ対策」に関連したものでしたが、統一主題を的確に踏まえ良い成果を上げられたと思います。コロナ禍に対応したMQI発表大会という面に目が行きがちになりますが、これまでの地道なMQI活動があったからこそ、こうした展開ができたのだと思います。

特に「COVID-19プロジェクト」はプロジェクトメンバーだけではなく、全部署、全職員の総合力だと思います。本来のMQI活動チームは4チームでしたが、本年は病院全体でMQIに取り組んだという見方もできるのではないかと思います。

発表の中でさりりとマニュアル類を100近く改定したという成果を述べられていましたが、凄い取り組みだと感心しました。MQIを意識しなくても、コロナ禍という外的要因を踏まえた変化に対応したMQI活動として、全職員が何らかの形で関わっていたものと思われまます。

昨年の大会で、『言わば「MQIの本領発揮の時代」が到来したと位置づけられます。』という感想を述べさせていただきましたが、本年がその初年度になったのではないかと思います。練馬総合病院の皆様の底力を再認識させられました。

「つなげる」を実行した後は、飯田理事長がハローホスピタルで述べられているように「つなぐ」「つながる」「つながっている」という段階への道のりが待っています。

第26回 医療の質向上活動発表大会に向けて益々のご検討を祈願しております。

新型コロナウイルスへの対応

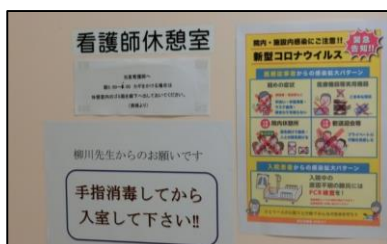
院長・MQI推進委員会委員長 柳川 達生



2019年末中国当局からWHOへ原因不明の肺炎の発生が報告された。2020年2月上旬ダイアモンドプリンセス号での集団感染、2月中旬に専門家会議の初会合が開催され、我々も注意が必要との認識を持ち、MQI推進委員会の宴会を中止した。個人的にも3月7日の大阪出張をとりやめた。対岸の火事でなくなったのは3月下旬の某医療機関のクラスター発生報道であった。報道翌日、まず外来、病棟を回り休憩室等での感染の危険性、消毒の徹底を指示した。報道では多数の濃厚接触者も14日間休業と聞き、強い危機意識をもった。しかし当時濃厚接触者の定義は不明瞭で、難解なCDC暫定ガイドラインを元に表を作成し職員に周知した。

職員から質問も多くQ&Aも発行した。必要に応じてマニュアルを作成していると20程度に達した。膨大な数になることが予想され、マニュアルのタイトルを一覧にしてアクセスしやすい仕組みにした。今では100以上となっている。

新型コロナウイルス対応では多くの職員がいろいろと知恵を絞りその力を結集することができた。25年間培ってきたMQI活動の賜であると痛感している。



医療従事者のリスク評価と行動規範
以下は目安です。個々の事例で解釈します。濃厚接触者の定義
不可ならぬように行動すること。不同の場合2週間の家内隔離の対策となります。
3月7日のCDC暫定ガイドラインを元に作成 令和2年3月25日 柳川 達生

患者がマスクをしている場合

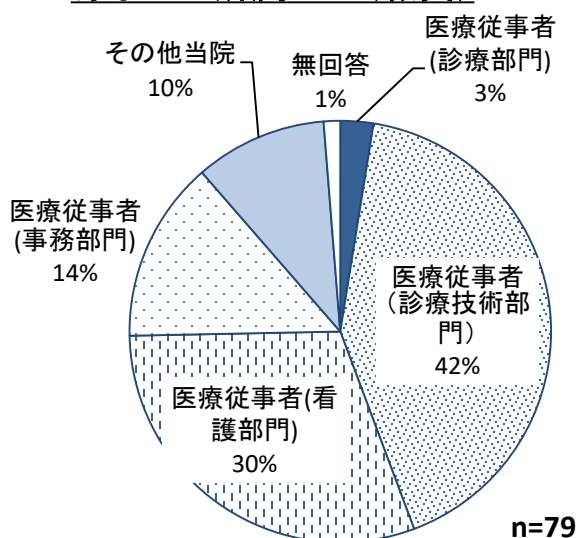
	医療者の服装	医療者の行動規範				
	マスク着用 手袋 防護シールド	2m以内で5分 以上会話	濃厚接触	濃厚接触		
1	×	×	×	×	不可	不可
2	×	○	○	○	不可	不可
3	○	×	○	○		
4	○	○	×	×		不可
5	○	○	○	○		

審査員より各チームへ(一部抜粋)～良い点、改善点・ご意見など～

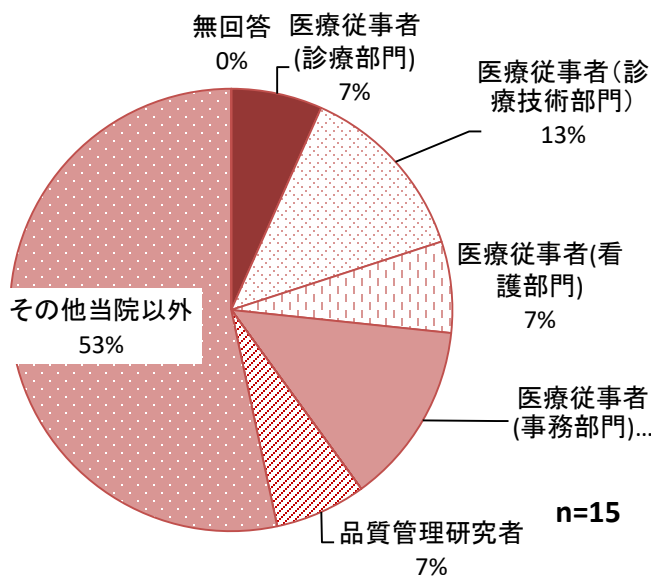
	良かった点	今後の課題と思われる点・ご意見・ご感想 など
<p>①医療情報管理室・医事課</p> <p>『病名欄への病名登録を確実にする』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病名の意識付けの活動になった。病名が付けやすくなった ・医師への周知の講演はわかりやすく楽しく聞くことができた ・医師に果敢にチャレンジする活動であるが、ソフトなタッチで好感の持てる取り組み方でした。 ・医師の負担軽減が叫ばれる昨今、たとえ負担が増えてもやるべきことをやってもらうという姿勢で取り組み、結果、負担増を感じさせず改善結果を得た。 ・保健医療機関として必須とされ、100%達成が求められるテーマに取り組みられたことは、大変意義のあること 	<ul style="list-style-type: none"> ・原因追求は説明不足、若干甘いところがある ・医師からのヒアリングをもとに、もう少し整理し対策を講じる必要あり ・今後の課題として、病名パネルを医師ごとに個別化するとしたが、今回の活動内容をもっと掘り下げて検討する必要あり ・問題となることが多い診療科、病名に対して個別の対応も検討いただきたい ・新人医師ばかりの教育が重要ではない。E-learning等があてもいいのでは ・今後の継続のために、記載率サーベイランスと記載率の低い医師への教育を蕭々と取り組んでください。
<p>②看護部</p> <p>『退院支援に必要な情報を多職種で共有する仕組みを再構築する』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援カンファレンスの補助的な役割で退院支援管理表を改定した ・各職種患者さんの情報を収集しやすくして、業務を複雑にしないで退院支援に必要な情報収集という目的を達成しようという発想はいい。 ・最も課題のある内科に絞り、退院支援管理表の存在と必要性を意識する活動になった。一歩進めることができた。 ・退院支援の状況も分かりやすくなった ・煩雑さを軽減できた点が良かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・選定理由、目的、纏めのそれぞれの段階が繋がらない感である ・退院支援管理表から必要な情報を収集しにくいという意見が対策後も6割あり、利用数もまだまだ少ないようで、まだまだ継続する必要がある。今後の展開を期待 ・長期入院患者さんに対して、各職種が多面的に定期的にアプローチするしくみが確立すると、新たな切り口が生まれて、2か月を超えるような(いわゆる焦げ付き)症例が減らせれば素晴らしい ・記載・利用の周知徹底を行うための仕組みづくりが必要
<p>③内視鏡センター</p> <p>『内視鏡検査増加に対応する仕組みを作る』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡検査数増の至上命令に応えるべく、業務内容、仕組みを変えた。これ以上の増加は人員や機器購入を視野にいれることが分かった ・内視鏡に関わる医師を巻き込み、細かい点の見直しなど協力を得られた活動ができた ・ストーリーが明確で、従来から継続している受入件数増の活動は、難易度が増しているが、さらに成果を上げることができた活動内容であった。 ・患者さんの待ち時間短縮にもつながっており、副次的な効果も得られていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動テーマ「つなげる」との関係性の表現が希薄 ・参加者から指摘されていたが、目標は検査数増で、工程の時間短縮ではない。工程の時間を短縮させたのは検査数増のためである ・内視鏡センター内で完結している活動にも思えた。検査前後や病棟・外来とのよりスムーズな連携なども取り組むと良い ・今後の課題とした抜本的な業務の見直し、スコープや施行医、人員配置に取り組むことに期待
<p>④検査科</p> <p>『病棟や救急カートにある検体採取容器を管理する仕組みを作る』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟、救急カートの検体採取容器を管理する仕組み構築につき、MQIストーリーが型通り定着している ・テーマが具体的に絞り込まれていて、非常に分かりやすい取り組み ・現状把握で詳細なデータを集め、それに基づいた対策、しくみを構築した。現実的に実行可能な対策になっている ・検査の質を検体採取容器管理までと認識し、検査課が介入し他部署の業務軽減、質の向上に貢献した爽快感のある活動。検査の精度を高めるための、まさに質の向上につながる取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ選定理由の正しい検査結果を得るための検体採取容器の管理という面では期限切れ以外になかったのかと感じた ・原因の説明が具体的でない ・MQI活動で求められている他部署、他職種との連携の観点がもう少しあってもよかった ・歯止め標準化の観点で、マニュアル化について触れていただければもっと良かった ・自動的な記録システムも必要。GS-1の活用も考慮に入れたら良い
<p>⑤プロジェクト</p> <p>COVID-19</p> <p>『新型コロナウイルス感染症への対応』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に院内感染、クラスター発生を生じていない ・対策は全病院あげての取り組み。多くの職員が問題点をあげて解決しようと努力した。これまでのMQIの成果である ・全職員協力の下、手順・マニュアル・業務フローを一元管理しマニュアルを作成しても訓練は一部の人のに限られているところが多い中、訓練まで対応した。 ・とにかく膨大な業務を手際よく対応したことがわかる内容であった ・いつまで続くか分からない内容をこの時点で総括できたことは、次のステップへのよい足掛かりになった 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス特有の課題に立脚した対策が不十分に見える ・関連部署以外でも院内のマニュアルを周知していくためにWebや文書管理できるようになったことはよかった。 ・マニュアル改定、Webビデオ作製などを自前で実施したこの取り組みの業務負担・困難さがどうだったのかも知りたかった ・発表であった「BCPの改定と更新」には是非取り組み、感染症だけでなく、あらゆる危機的状況に対応していける土台を確実なものにして頂けることを期待 ・長期化する中で、個人のプライバシーと院内感染対策の両立をどのように行っていくのか、今後検討していく必要があるかもしれない
<p>⑥プロジェクト</p> <p>『ホームページ刷新の取り組み』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でHPの役割が重要性を増したタイミングの良い活動で、さらに今後に期待できる内容 ・最も困難を極めた意見集約、どのページに誰が責任を持つのか、といった、本プロジェクトを進めるのに苦労した点を、今後の更新作業のための対策に活かした点は素晴らしい ・ホームページは当院の最大の弱点の一つで、本当に必要性の高い取り組みであった 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果判定がうまくできていない、全体最適な取り組みができていない(だれが見ているのか?) ・職員が当院のHPに興味をもって閲覧しよりよくするための提案をすることが重要。ホームページ更新は、面倒という意識を持たずに職員が提案できると良い ・今後さらに魅力的なホームページを作成するようところが課題 ・情報発信・更新の管理体制としてサイトマップと担当者が明確化されたが、内容の質に関して標準化はどうか ・広報委員会の役割も明確となった。より一層の関わりを期待
<p>⑦プロジェクト</p> <p>『オンライン面会の実現』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さん、ご家族の潜在的需要に応えた、患者・家族にとつて安心できるサービスとして意義ある活動 ・コロナ禍での面会禁止の措置は、患者さんやご家族の理解をえるのは比較的容易と思われるが、それでも声にならない要望を拾い上げ取り組んだ本プロジェクトは、大変意義のある、組織の理念に合致する取り組みだった ・PDCAサイクルを躍動感をもってまわし、成果を得た。さらに今後の展開に期待できる内容であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面会禁止が解除された後も、何らかの形で継続できるように期待 ・今後は、運用をもっと簡素化できるといい。継続的な機能の見直し求められる ・総合ソフトウェアとの共同開発プロセスについて活動内容の説明が欲しかった ・効果判定には時間的制約があり、不十分

MQI 発表大会アンケート集計結果 (回答数94名)

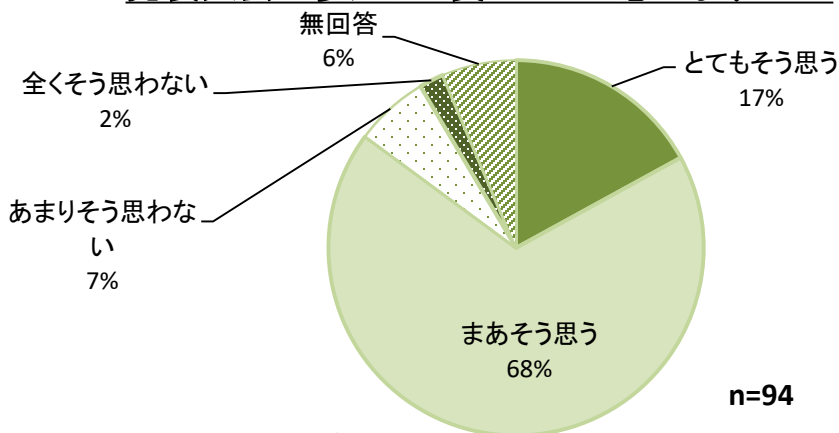
あなたの所属は？(職員)



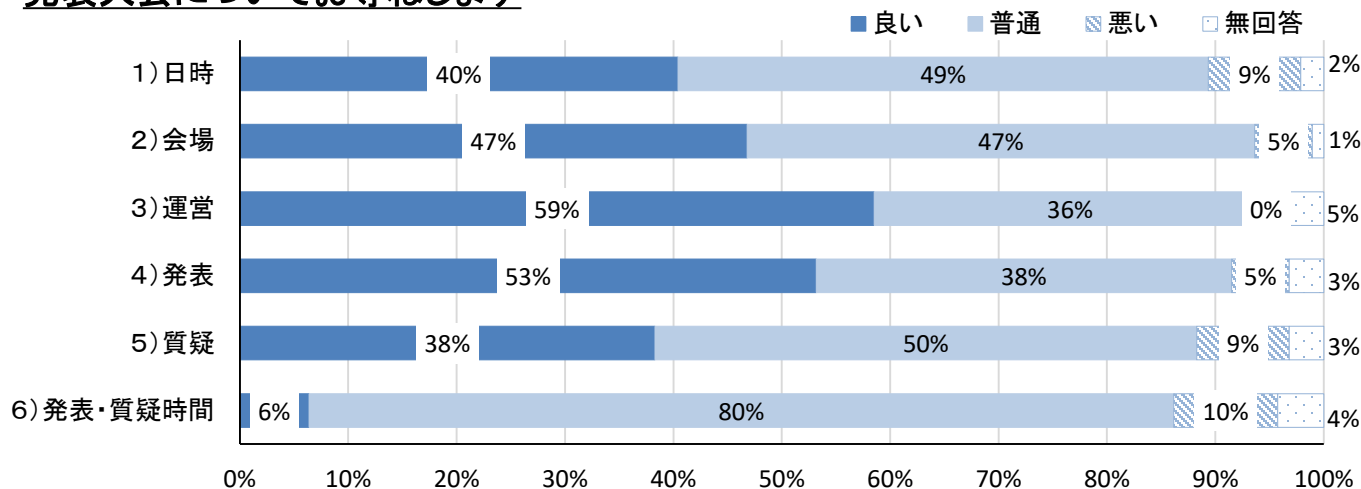
あなたの職業は？(当院以外)



発表大会に参加して良かったと思いますか？



発表大会についてお尋ねします



良かったと思うチームは？ (最大3チーム選択)

	院内	院外	内外合計
1位	臨床検査科	HP PJ	臨床検査科
2位	内視鏡センター	COVID-19 PJ	内視鏡センター
3位	医療情報管理室・医事課	オンライン面会 PJ	医療情報管理室・医事課

ZOOMとのハイブリッド形式での開催についてどう思いますか(一部抜粋)

【当院職員】

- ・事務は自分の机の上で報文集を広げやすく見られたので良かった
- ・感染リスクは低いですが、音が聞こえにくく、画面も1画面でやや見づらかった
- ・病棟でみられるのは良かったが、全く聞こえなかった
- ・Zoomに慣れないと接続までのやり方が良く分からないと思う
- ・当院職員は会場にいた方が質問もしやすくてよい
他院などからの参加についてはZoom併用すると増えると思う
- ・自宅で観られたらもっとよい
- ・例年より集まる人数は少なくなったが、密になっている
受付で検温や手指消毒もなかった
- ・やるなら家でみられるように、質問が出づらい
- ・意見や質問してくれる参加者のため、管理者側が背景を隠してあげる配慮も少し必要と感じました
- ・一体感がない、参加している気がしない
- ・いつもはスクリーンが遠く見えないため、今回は良く見えた
ただし設備の問題か音が聞こえづらいことが多々ありました
- ・リアルタイム投票で反応を見られるの良いですね

【当院以外】

- ・コロナ禍の中、これがベストな方法だと思います。ゴディバだけが残念ですが(笑)
- ・zoomの欠点である音質に工夫が要る。マスクのせいなのか、発表者の喋り方のせいなのか、聞きづらい場面が何箇所かありました。
- ・画質に関しても明るい場面と暗い場面とあり、今後オンライン形式を採用する場合は、お気を付けいただきたいと思いました。

今後MQI活動を継続的に実施していくために必要な配慮や工夫(一部抜粋)

【当院職員】

- ・委員、チームメンバー以外にどのような活動がどのくらい進んでいるかをもっと広報してみたらどうでしょうか？中にいると、外からどう見られているかわからない気がします
- ・コロナ中はもっと開催等を考慮し、安全に配慮すべき
- ・準備時間がかかり短く、1チーム2年の準備期間でもよいのではと思います
- ・負担がもっと減ると良いです。やっぱりリーダーが残っていたり、家で作業したりと大変そうなので
- ・以前から参加者が少ない、偏りがある問題が、ZOOMでさらに加速したように感じる。実際見て回って各部署、サテライトの参加者が少ないように感じた。
アンケートでも「業務時間外の参加は嫌だ」という声が毎年見られるが、「業務である」という認識に差があるように感じる。業務だというなら、参加しない人は業務を放棄したことになるので、ペナルティ(人事考課表のMQIの欄0点にするなど)をつけて、業務として参加した人、参加するよう指導した役職者が損をしないようにしてほしい。
もはや「業務だから参加しましょう」だけでは通じなくなってきているのなら、厳しい措置が必要であると考える。あるいは参加者へ勤務手当を支給し、参加しない職員と差をつけることも可。

【当院以外】

- ・複数施設での共同開催などがあってもよい。
- ・コロナ禍の中でもこうやって柔軟に工夫しながら対応できる姿は素晴らしいと思います。
- ・今回は発表自体は、飯田理事長もお話されていたようにオンラインで問題はないと思っていました。それよりチーム結成が可能なのが不安視していました。やはり例年に比べて準備密度は薄かった
- ・改善活動はRCA的だと思っています。テーマは変化しても現場で起こる問題・改善の内容は同じことが繰り返されます。FMEA的に将来を見据えて改善・発表する事を求めるのは酷ではないでしょうか。
- ・MQI活動が担うべき分野は何処にあるのでしょうか？

**推進委員会では、いただいたご意見・ご感想を今後の活動に役立てていきます
ご協力ありがとうございました！！**